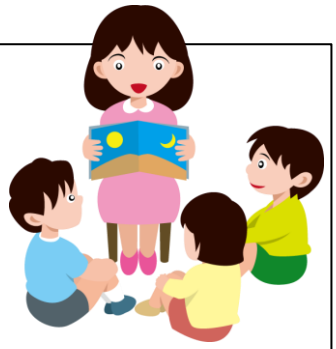
長崎市立滑石小学校　校長室だより　Ｎｏ41

2月 今日の一言



５．２．２２　校長　渕上　卓也

読み聞かせ

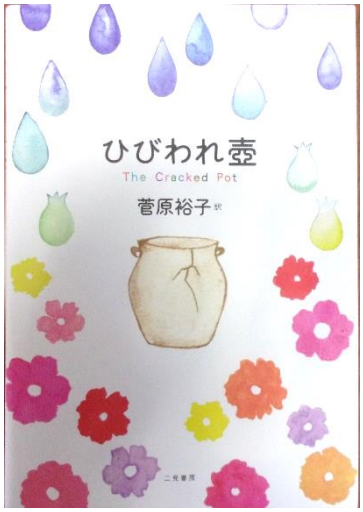
渕上は、絵本を読むのも好きだけれど、子どもたちに読み聞かせをするのも大好きです。もちろん「らいぼさん」のように上手ではありませんが、自分の気持ちを絵本に乗せて伝えられることが、何とも言えず心地よいのです。

先日、１年１組さんで読み聞かせをしました。１年生に読み聞かせをするのは久しぶりでしたね。読んだ絵本は２冊。「じゃない」（チョーヒカル作　フレーベル館）と「にゃーご」（宮西達也作絵　すずき出版）です。どちらも校長室図書館にあり、子どもたちに人気のある絵本です。「喜んでくれるかな？」と、ドキドキワクワクしながら教室へ出掛けました。

読み始めると、子どもたちの目線が一斉に私の方へ。みんなで声出しをする場面も設け、大いに盛り上がりました。みんなで「にゃーご！！」　感想もたくさん発表してくれて、嬉しかったです。本は、子どもたちの感性を育てます。心を豊かにしてくれます。自分で想像を膨らませ、読み深めることができます。メディアのように与えられる一方ではないのですよね。

昨年の秋に、５年生にも読み聞かせをする機会がありました。その時に読んだのは「ひびわれ壺（菅原裕子訳　二見書房）」という本でした。インドの民話です。一人の滑石っ子５年生がこんな感想を言ってくれました。「２，３年生の頃も読んだことがあるけれど、その時は意味がよく分からなかった。でも、５年生になって聞いたら、意味がよく分かった。」一冊の本との出会いで、自分の成長を実感してくれたのです。

「本は自分を成長させてくれる大切な友だち！！」そんな思いを持つ滑石っ子になれたらいいですね。読み聞かせの希望、絶賛募集中です。希望がなくても、厚かましく出掛けるのが渕上です。滑石っ子、お待ちしております。



＜今日の一句＞
読み聞かせ
私の顔が
七変化　　卓也